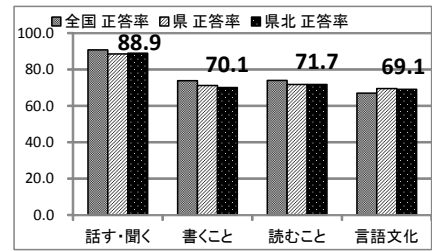


**国語 (小学校)**  
[小学校国語 A]

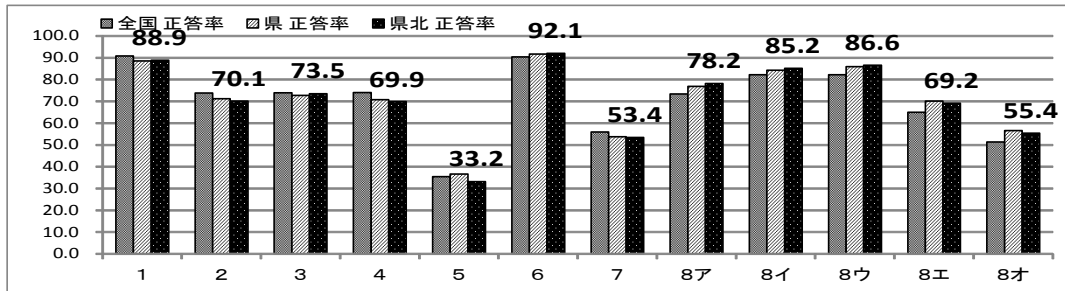
正答率	H30	全国比
県北	71	+0.3
県	72	+1.3
全国	70.7	

※ 領域別の正答率 (値は県北地区)



県北域内の正答率は、全国平均を0.3ポイント上回った。しかし、領域別の正答率を見ると、「話す・聞く」「書く」「読む」領域は、全国平均を下回る。「言語」領域が全国平均より高いことが正答率の上昇につながったが、3領域の能力を高めたい。

【各設問ごとの正答率 (値は県北地区)】



**【結果】** (課題として挙げた問題は、正答率の低い問題や過去に課題とされていた問題である。)

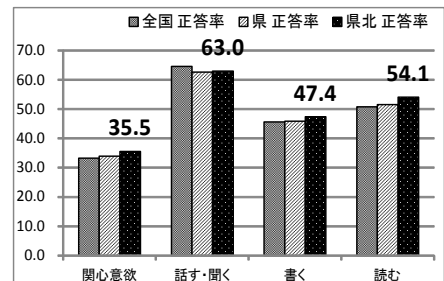
- 慣用句の意味を理解して正しく使ったり、文脈に即して漢字を書くことができる。[6][8]
- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例を挙げながら筋道立てて話す力が付いている。[1]

- 文章の中における主語と述語の関係に注意して、文を正しく書くことに課題がある。[5]
- 相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題がある。[7]
- 登場人物の心情について、情景場面を基に捉えることに課題がある。[4]

[小学校国語 B]

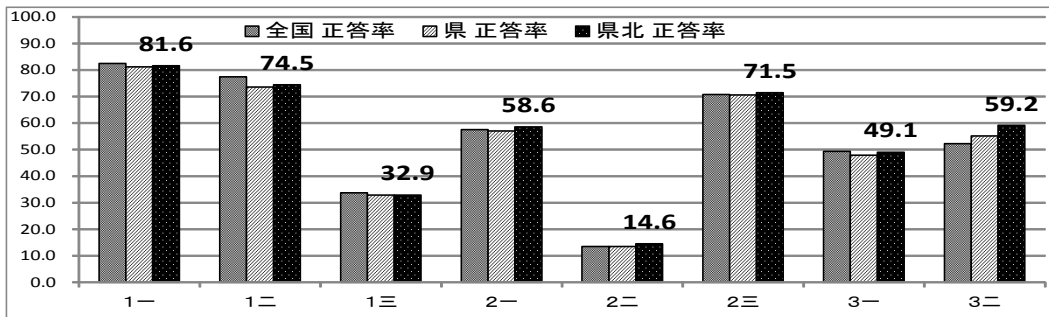
正答率	H30	全国比
県北	55	+0.3
県	54	-0.7
全国	54.7	

※ 領域別の正答率 (値は県北地区)



県北域内の正答率は、全国平均を0.3ポイント上回っており、昨年度の全国比よりも向上した。領域別では、「書く」「読む」領域で全国平均を上回ったが、「話す・聞く」領域は全国平均より低い。

【各設問ごとの正答率 (値は県北地区)】



**【結果】** (課題として挙げた問題は、正答率の低い問題や過去に課題とされていた問題である。)

- 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることができる。[2](一)
- 推薦理由を書く際は、他のものと比較して書くと、よさが伝わることを理解している。[2](三)
- 目的に応じて、文章の内容を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。[3](二)

- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。[2](二)
- 話し手の意図を捉えて聞き、自分の意見と比べて考えをまとめることに課題がある。[1](三)
- 計画的に話し合うために、司会の役割について考えることに課題がある。[1](二)